

五月山動物園の動物たちの魅力をご紹介します!

さわやか アニマル探検隊

WITH 五月山動物園PRアイドル
KeeperGirls まりいな

今日はカメ
五月山動物園には、ケツメリクガメと
ヒョウモンガメがいるよ



KeeperGirls まりいな

今日は、「カメ」をご紹介します。現在五月山動物園には「ケツメリクガメ」と「ヒョウモンガメ」の2種類が飼育されています。「ケツメリクガメ」の甲長は70cm以上。背甲の、コブの出にくい「モロツコタイプ」と、コブの出やすい「ガーナタイプ」がいます。五月山動物園で暮らす子は「ガーナタイプ」とのことです。主に砂漠の周辺やサバンナに生息しています。「カメ」は水辺に暮らしているものだと思っていたので意外ですね...! 食事は主にイネ科の植物、多肉植物、草、低木の葉、花、果実などを食べます。野生下では水がある時間が限られた環境に生息しているため、食物や代謝によって生じた水分を摂取します。「ヒョウ

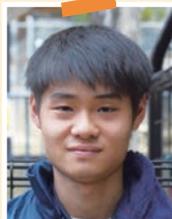
個体名: チェカ (ケツメリクガメ)
年齢: 不明 性別: オス



個体名: ヒトミ (ヒョウモンガメ)
年齢: 5歳 性別: オス

モンガメ」は最大甲長70cm程になりますが、飼育下では平均して40cm前後になります。不規則な模様が「ヒョウ柄」に似ていることからこの名前が付いたそうです! 背甲はドーム状に盛り上がっています。「ヒョウモンガメ」は主に、サバナ気候やステップ気候(熱帯、乾燥帯)で標高3000m以下のイネ科や低木からなる草原、サバンナ、乾燥林、有刺植物からなる低木林に生息しています。とはいえ、極端に乾燥した環境は好まないそうです。野生下では、草、木の葉、果実、多肉植物、キノコなどを食しています。なんと、大型哺乳類の骨をかじっていた例もあるそうです。植物の乏しい場所では食べ物を採るために移動しますが、時には50kmもの距離(池田〜梅田を往復するぐらい!)を移動し、砂漠を渡ることもあるそうです。「ケツメリクガメ」「ヒョウモンガメ」どちらの個体も、生息地の破壊、食用やペット用の採集などにより生息数が減少しています。絶滅の危機の恐れはありません

カメ担当 飼育員さんに質問!



平川 潤さん

まりいな▼チェカとヒトミの魅力を聞かせてください!
平川▼チェカはふれあい広場の人気者です。「チェカ」の名前はスワヒリ語で「笑つ」、「笑顔」という意味で、その名の通り皆を笑顔にしてくれています。「ヒトミ」の名前は、譲り受けたとき、個体識別番号が「N0・13」だったため、「二三(ヒトミ)」と名づけられました。2頭ともとても甘えん坊で、僕が掃除などでカメ舎に入ると、構ってほしそうに近づいてくるんですよ! チェカは、足を踏んでくることもあります笑。本当にかわいらしいです。

が、遠くない未来では、彼らの姿を見られなくなる日も来るかもしれません。五月山動物園では、「ふれあい広場」にて「ケツメリクガメ」「ヒョウモンガメ」に会えますよ! ぜひ、遊びに来てくださいね!!